

かけはし

発行者 中野敏治

tnknkai@gmail.com

書くということ

伝えるということ

平成二十年五月十八日(日)、私は山田暁生氏が入院している多摩市の病院にいました。朝から昼食持参で、二人で本の校正をするためにです。

ホスピスに移られた山田暁生氏の病室は、二部屋あり、午前中は、それぞれの分担場所を別々の部屋で行いました。

いつか共著で本が出せればと、数年前に互いに話をしたことを思い出しながらの校正でした。

山田氏は、校正の途中でナースを呼びました。五月の中旬、さほど寒くない日でしたが、山田氏は「寒いから湯タンポを二つ持ってきてくれないか。」とナ

この一言で 子どもが伸びた

無限の可能性を引き出す感動の言葉



山田暁生・中野敏治 著

その姿をベッドの横でじつと見ていた私は、心の中から熱いものを感じました。「書く」という情

山田氏の寝姿を見ながら、校正を終えたばかりの原稿を持って病室を出ました。駅までの帰り道にあったコンビニから、宅急便でその原稿を出版社(学事出版)へ送りました。

こうして出来上がった本が、「この一言で子どもが伸びた」(無限の可能性を引き出す感動の言葉)という本です。

ースに声を掛けていました。微熱があるのだと感じながらもベッドに座り込み、校正を続けていました。疲れたといつて、一緒にアイスクリームを食べ、また作業の続きを互いに行いました。午後になり、二人が校正した部分をあわせ、まとめていきま

した。最後のページの校正は山田氏が行いました。そのページの校正に入ったときです。山田氏の身体が震え、そして、手が震えだしたのです。字が書けないほどの震えの中、その震えを抑えるようにしてすべての校正を終えました。すぐにナースを呼び、熱を測り、そのままベッドで休まれました。

ホスピス 生活開始

もうこのまま死に向かって突進していったらかと思いつつ夜を過ごしたことも、1く晩もありました。そんな入院(2007H19.11.27)生活でした。でも、私を見守って伴走してくださった人のお陰で、1くつもの大小の峠を越え、きょう(2008H20.5.7)まで、何とか違うように生きてきました。

しかし、抗がん治療にも見切りをつけざるを得ない諸条件が生まれ、5月8日より治療を断念し、ホスピスで死に至るまで生きていくことになりました。まだ書きたいことが沢山あります。最後にはパンを持って川に足を踏み入れられれば、自分の人生はそれでいいと思っています。

ホスピスでは主治医が麻酔科の専門医に替ります。痛みをしっかりと抑えた生活をアレルメントしてくれることでしょう。

本望

熱、「伝えよう」とする姿に、目頭が熱くなりました。

私が出会った子どもたち(18)

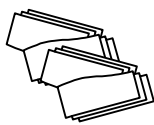
環境は人を変える



私の隣のクラスはいつも掃除が遅く、授業も落ち着きがありませんでした。担任もどう指導してよいのか戸惑っていたようでした。授業に落ち着きがないと、教室も汚れています。

掃除の時間もなんとか楽をしようとする生徒が出ていました。

放課後の教室で



ある日、帰りの会を終え、子どもたちが帰ったあと、教室で生徒のノートを見ていました。生徒が帰ったあとの教室はとて

も静かです。その静かな中で、机を動かす音が隣の教室から聞こえてきました。生徒はみな帰ったはずなのに教室から聞こえてきたので

す。

そっと教室を出て、廊下から隣の教室をのぞくと、担任が一人で生徒の机をきちっと並べていたのです。

落ち着きがなく、ざわざわしていた教室だけに生徒が帰ったあとの教室も机が乱れていました。その乱れた机を、担任一人で整頓していたのです。

若かった私は、「どうして教師がこんなことを…」「生徒にやらせるべきだろう！」とその姿を見ながら思っていました。

その日から、隣のクラスの担任は毎日生徒が帰ったあと、教室の机を整頓していました。

それでも、教室は落ち着きを取り戻せませんでした。



生徒はいつか変わった

ある日、隣のクラスの担任が出張でいきました。

出張でないはずなのに、隣

の教室から机を動かす音が聞こえてきたのです。

そっとその教室をのぞくと、二人の女子生徒がクラス全員の生徒の机を整頓していたのです。いつも担任がしていることと同じことをしていたのです。

思わず「何をしているの?」と声を掛けると、驚いた顔をして、「毎日、先生がしていることをしているだけ」とさらっと答えるのです。

「どうして、担任が毎日していたってわかるの?」と尋ねると、「そんなのわかるよ。毎朝、登校してくれば、机がきちっと並んでいるんだもの。みんなわかっているよ。」と話してくれました。

生徒の姿「変化」が



それからは放課後に担任と二人の女子生徒の三人で机の整頓が始まりました。不思議なことに、その頃から

クラスの落ち着きが出てきたのです。

落ち着きがないから、教室が汚いのではなく、教室が汚かったから、落ち着けなかったように感じました。

放課後の机の整頓を担任と一緒にする生徒も増えてきました。そして、自然と掃除の時間も、どのクラスより、よく行うクラスになりました。

語らずしも伝わるもの。語らないからこそ強く、深く伝わるものがあることを学ばせて頂きました。



子どもたちは教師の、大人の姿をじつと見ているのです。そこに子どもたちの姿が見えなくとも、教師の、大人の心の奥まで子どもたちは見ているのです。そして、その姿を本当に感じたとき、子どもたちは自然に行動を始めたのです。言葉ではなく、姿（行動）で子どもたちは動き出したのです。子は宝です。